

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議で唱和し共有している。	理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」の具現化に向け、利用者1人ひとりの事情を汲み取り、その症状や能力に沿いながら、生きる意欲を引き出し、「その人らしさ」となるよう、会議での唱和や日々の関わりの中で、都度理念に立ち返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りを招待したり町の文化祭や敬老会等に参加させていただいている。	敬老会の参加や文化祭への作品出展、定期的に出向く地元スーパーや図書館など、利用者の日常生活を支援する中で地域と関わっている。近隣保育園からも、毎年運動会やクリスマス会に利用者が招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	それぞれの認知症の特性に応じ、支援させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の状況報告や事業報告を行い、随時意見交換を行っている。	会議は隔月開催で、家族代表、市社協の会長でもある区長、行政、包括職員の構成で、近隣同法人事業所と合同で開催している。入居状況に加え、花見や夏祭りなどのホーム行事報告、感染対策・避難訓練・AED研修など時節に応じた議題で、意見や助言を頂いている。	会議議事録を、参加者や家族に配布されるとともに玄関にも常置され、また参加者も近隣保育園や敬老会・公民館の関係者の方々にお願ひし、増員される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも毎回参加させていただいている。	行政担当課には運営推進会議にてホームの実情を伝え、毎月の入退去報告や介護認定更新の申請代行等、介護制度や市の方針を遵守し、ホームの適正運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から利用者が自由に入出入りできるよう玄関は施錠せず、外出しそうな様子を察知したら声かけしたり一緒についていく等し安全に配慮しながら自由な暮らしを支えるようにしている。	日中の玄関施錠はせず、利用者には安全に配慮しつつ自由な生活になるよう努めている。身体拘束の正しい理解は、身体拘束等適正化委員会で課題検討をしたり、日頃も、同じ話を繰り返したり、家の様子が気になり帰宅願望が強くなった方には、職員が穏やかな口調で肯定したり、一緒に行動するなど、不安を感じさせない対応ができるよう取り組んでいる。	さらなるケアの向上に向け、事例に基づいた研修・勉強会の機会を増やされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で話し合い、研修会等にも積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様及びご家族の意見、要望を全職員が共有し日々のケアに活かしている。	家族からの、なるべく歩かせての要望で外出支援を増やしたり、字を書く練習をさせての申し出にぬり絵後に署名練習もしてもらうなど、利用者を思う家族の気持ちに応え、歌好きな利用者には毎日皆と一緒に歌って頂いている。家族には毎月、代表者と担当職員が近況コメントやスナップ写真を送付し、訪問時の気軽な会話からもケアの参考になることが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で随時意見を聞き運営に活かすよう努めている。	毎月のユニット会議に、代表者、近隣の同法人事業所の管理者も兼ねるケアマネ、元行政職員の非常勤職員が参加。非常勤職員からはその知識と経験から貴重な意見や助言があり、また代表者がいることで、意見や提案が直接運営に反映される環境でもあり、必要に応じて代表者との個別面談も可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の能力に応じて役割を持っていただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から状態を記載したお便りを送付している。受診介助もご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	かかりつけ医を継続し、行きつけの美容院にも行き続けている。	家族以外にも自宅近所から面会に来てもらえる方、敬老会で顔馴染みの知人がいる方、家族と美容院や墓参りに行く方、また30年会っていないが御子息と毎月食事に行き、職員からの御子息への進言でその時にお酒も嗜んでいる方など、これまでの人や場所との関係を支援している。ホームに来てから馴染みとなったボランティアとの将棋が楽しみな方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には職員が間に入り橋渡しをしている。関係性が悪くなった利用者が出てきた場合はさりげなく食事の席替え等をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、亡くなられた時には葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ヒアリングシートを利用し利用者様及びご家族の希望、意向の把握に努めている。	ぬり絵やチラシのゴミ箱作り、茶碗やテーブル拭き等々利用者のやりたい事や好きな事は家族情報も含め、日々の行動や会話から職員間で共有し、職員会議でも検討し、思いが叶うよう支援している。食べたいものや行きたい所の要望に応える誕生会に、中華料理を希望されたのをきっかけに、最終的には皆で皮包みして中庭で餃子パーティーに至った事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを知り、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ユニット会議のモニタリングの実施や、ご本人やご家族の意見等をその都度確認しケアプランの修正や追加を行っている。	計画は、歩く機会を増やしたり、ぬり絵と名前を書く練習や、1日1回は皆と歌う等々、本人や家族が何を求め、職員もどういった支援をしているかが、具体的に伺える内容となっている。更新時には全家族に希望や意向を確認し、更新時期も一律にせず、それぞれ異なる計画ごとに設定し、変化があれば都度見直している。	現在進められている「その人らしさ」重視の、より現実的かつ職員誰もが何をすべきかわかりやすい、ホーム独自の介護計画の進化に向け、引き続き取り組んで行かれる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの活用や町の図書館に定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人家族の希望を聞きこれまでのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。	受診は、ホーム提携医療機関のほか、入居前からの利用者個別の医療機関からの訪問診療もあり、通院や外来受診については基本家族付き添いだが、事情によって職員が連れ添う場合もある。看護師職員もおり、全利用者の健康管理を含め提携医の指導のもと施設内感染症対策も図っているなど、適切な安全環境作りや医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があれば相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応及び看取りの指針に基づき事業所の対応方針を家族に説明している。	毎月のモニタリングや食事が取りづらくなるなどの日常の関わりの中で重度化傾向が見られれば、早い段階で家族に診察をお願いし、診断結果に応じてホームでできる支援や提携医療機関、特養施設を紹介し、悪化しても本人・家族が不安なく進めるよう図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルを整備してある。	行方不明も含む症例別の対応マニュアルを配備し、「ヒヤリ・ハット報告書」は毎月のユニット会議で検討し、救急搬送があった際もその対応を振り返る勉強会を開催し、事故予防や再発防止につなげている。消防署員によるAED・救急救命講習を近隣同法人事業所と合わせ年2回開催することで、全職員が受講している。	看護師職員を講師に、より実践的な研修開催も期待したい。
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関の医師は往診に来ていて日頃から医療に関する事を相談させていただいている。	提携医療機関のほか、利用者個別の複数のかかりつけ医療機関にも定期訪問診療に来て頂いており、特養施設についても当該施設の研修・勉強会参加で交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各ユニット1名の勤務体制であるが多くの職員がグループホームから近距離に居住しており緊急時には迅速に駆けつける体制を取っている。また緊急時に円滑に連絡が取れるよう緊急連絡網を整備してある。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で夜勤専任職員もいる。日中状況の申し送りに万全を期し、不測の事態や緊急時は、24時間対応の提携医療機関に連絡や救急通報するが、応急手当や容体、既往歴等その説明の仕方も研修しており、その後は家族、管理者、代表者に連絡する手順となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、年2回防災業者の協力で日中・夜間・火元を毎回変え、利用者も玄関先まで退避し通報操作確認や消火訓練を実施している。今年度はボランティア1名にも参加頂き、また県社協と地元市社協協同主催の防災イベントにも主幹職員が参加し、避難先も小学校から近隣保育園に変えるなど、改めて防災意識を深めている。	年2回いずれかの避難訓練に消防署立ち会い訓練も加え、当地に起こりうる災害を想定したより現実的なマニュアル作成及びそのマニュアルに沿った研修実施、また退避訓練を近隣の保育園と連携するなどの取り組みにも期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急連絡網、マニュアルが整備されている。	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食、保存水等の備蓄品の3日分相当を消費期限を含むリスト化管理し、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品も整備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った対応をするよう心掛けている。	利用者も職員も地元の方が多く、当地の慣習や生活習慣に倣った言葉かけと、個性や人柄に応じた接し方で対応している。聴力の衰えや認知・身体機能の低下など、その方にはどんなケアが良いのかユニット会議で検討したり、日頃も担当職員情報を基に「その人らしさ」を護れるよう努め、症状の理解と個性を尊重したケアとなるよう取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はできる限り本人の希望に沿って働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるようにケアしている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際には外出用の衣類を利用者と選び着用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳等できる利用者様にはしていただいている。	昼食と週2日の夕食には献立・調理の専門職員がおり、美味しい食卓を支援している。食材は地元スーパーに利用者で行っており、食事準備や調理・片付けも、できる方が手伝っている。ホーム菜園の収穫物や家族からのお裾分けなど、当地旬物も頻りに並ぶ。時には今年度に土間打ちした中庭でバーベキューをするなど、屋外レストランも楽しみとなっている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録したり栄養バランスを配慮しながら献立を立てている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については見守りしている。できない方については夕食後に介助している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけパターンをつかみ介助が必要な方についてはトイレ誘導をしている。	排泄は、ほぼ自立している方が多いが、全員を対象に排泄管理をし、モニタリングやユニット会議等で適切なパット・紙パンツ等の介護用品や介助の仕方を検討して臨んでいる。便秘や頻尿など正常な習慣作りに向け、野菜、乳酸菌、牛乳寒天の摂取、日中歩行や体操、マッサージなど、服薬にあまり頼らない本来の能力を引き出す支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように援助している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の利用だが、希望があれば対応したり曜日の変更等をしている。	入浴は、日曜を除く午前中に、週2回以上の入浴を目安にご利用頂いており、入浴を嫌がる方には勧める職員や日を変えて入浴頂いている。自分専用の洗髪剤を持つ方もおり、入浴剤の工夫に加え、湯加減や一番風呂等のご要望にも応えている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ日常生活に支障が出ないようゆっくり休んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年より薬局と協力して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や貼り絵などいろいろ楽しい時間が持てるよう援助している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや花見、紅葉狩り、地域の行事などにかけられるよう支援している。	毎年の外食も兼ねる紅葉狩り等の外出企画は、数回に分けたり、福祉ワゴン車をチャーターして皆で出かけているが、今年の花見は弁当をとり中庭のしだれ桜を楽しんでいる。日頃も頻繁に、散歩や日用品の買い出し、少人数で景勝地や人気の飲食店、図書館等に出かけている。また利用者の誕生月に食べたいものや行きたい所へ個別に出向く支援も好評	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努め、ひな人形やクリスマスツリー等の飾り付けをし日頃から季節感を感じられるよう工夫している。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、提携医指導のもと看護師職員が主となり窓開け換気や消毒清掃など、感染対策の徹底も図っている。玄関広間やユニット出入口の飾り付けでも四季が楽しめ、中庭のしだれ桜は、今年度土間打ちしたことにより一層映えるようになっている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファ席を準備してあり思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者の作品や家族の写真などを飾り付けし暖かみのある居室作りをしている。	居室は全室洋室でベッドが備え付け。危険物以外、それぞれ馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされている。ラジオ好きでこもりがちの方、人気アイドルのポスターを貼っている方、小型テレビを囲んで日中でも就寝前にも集まって話し込む女性の方々もいる。また運動機能に応じて、家族と相談しながら適宜に配置換えをして、安全環境を図っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内板を大きく分かりやすいように表示している。		